

小 春 日 和

こ は る び よ り

2013年 第23号

発 行

愛媛県立中央病院

松山市春日町83番地

TEL:089-947-1111

<http://www.eph.pref.ehime.jp/epch/>



診療連携と循環器病センターの役割

愛媛県立中央病院 循環器病センター長

地域医療連携室長

風谷 幸男

新病院が開院してから半年近くになります。季節も春から猛暑の夏を経て秋本番を迎えています。

移転に際し、多くのご施設の方々にご協力いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、大きなトラブルもなく新病院での診療に移行することができました。

半年前の事でありながら、旧病院での診療が遠い昔のように感じられます。この半年間、旧病院のことを思い返すことがほとんどありませんでした。きっと、新病院での診療に慣れ、それなりの満足感を得ているからだと思えます。

診療部門のセンター化構想に伴い、愛媛県立中央病院に循環器病センターが開設されてから3年半になります。開設当初、“小春日和”の中で、循環器病センターの紹介文を掲載させていただきました。その文面は次の通りです。

“循環器疾患には、高度な専門的手技を要するもの、急を要するもの、根気よく治療しなければならないものなど、様々な病気があります。いずれも、循環器系各部門が協力し補完し合いながら診断と治療に当たらなければなりません。そこで、2010年4月、循環器内科、心臓血管外科および関係する医療スタッフが一体になり、循環器病センターを設立しました。当センターでは、質の高いチーム医療を推進するとともに、専門医や指導医が診療の最前線に立ち、科学的根拠に基づいた最新の医療を提供して参ります。”

この理念は、病院の建物や機器が新しくなった今日でも全く変わっていません。

一方、急性期を脱した患者さんにおいて大切なことは、生活療法を含めた中長期的な全身管理です。

特に循環器疾患の患者の生命予後を改善させるためには、禁煙指導や高脂血症、高血圧症、糖尿病など動脈硬化を促進させる因子の治療を厳格に行うことが最も重要であることがわかっています。

高齢化が進む中で、多臓器の疾患や身体活動能力の低下を伴っている患者さんも増えています。このような状況に的確に対処するためには、診療機能の異なる病院、診療所、在宅医療部門や介護部門との連携が不可欠です。

一人の患者さんを専門分化された特定の施設が長期にわたり診療することは非効率的であるばかりでなく本来の役割を果たせなくなります。不慣れな領域を担当すると診療レベルも下がり、医療費の無駄使いにも繋がります。多様化するニーズに応えるためには、地域全体で一人の患者さんの医療や介護を完結する仕組みを構築しなければなりません。

幸い、松山医療圏では、それぞれの部門でレベルの高い医療や介護を提供できる施設がそろっています。あとはその活用方法です。多くの施設で地域医療連携室が設置され、施設間で患者さんのキャッチボールが的確かつスムーズにできるように連携体制を強化するための努力が続けられています。

当院が、開かれた形での勉強会、研究会、講演会や医療連携の会を企画し情報交換を推進しているのもこのような観点からです。地域内の諸施設が一つの大きな施設のように一体化した形で患者さんの医療や介護を担うことが求められているのだと思えます。



健康へのみちしるべ

— 第20回 —

泌尿器疾患について

愛媛県立中央病院 泌尿器科

医長 藤方 史朗

皆様、泌尿器科にかかろうと思うときはどのような時でしょうか。

百人百様とは思いますが、100人中80人ぐらいは「おしっこの出が悪い」とか「おしっこする時痛い」とか「おしっこが漏れる」等いわゆる「おしっこ」の調子が悪い時だと思います。但し、受診するとなるとかなりの勇気がいると思います。(特に女性は・・・)。

一方で尿というものは1日に平均5～6回でるものであり、また重大な病気が潜んでいる時もあり、異常を放置する事はよくありません。しかしご安心ください。当院の個性派揃いの泌尿器科Drが、豊富な知識を柔らかい表情で分かりやすく丁寧に説明し、時にはおやじギャグをまじえながら、時には病院中に響き渡る笑い声を提供しながら、時にはダンディな恰好及び風情で診察しながら、時には力強い一言で患者さんに安心感を与えたり、一方でクマモンのような医者が登場したりして、患者さんに不安感を与えないよう各医師が経験と最新の知識を融合させながら診察及び診断をすすめていきます。

早速ですが今回は、泌尿器科が扱っている疾患について簡単に説明させていただきます。

泌尿器科とは、尿が作られ通過する、腎臓～尿道までの泌尿器官(腎臓・尿管・膀胱・尿道)と男性生殖器官(精巣・前立腺)を扱う診療科です。

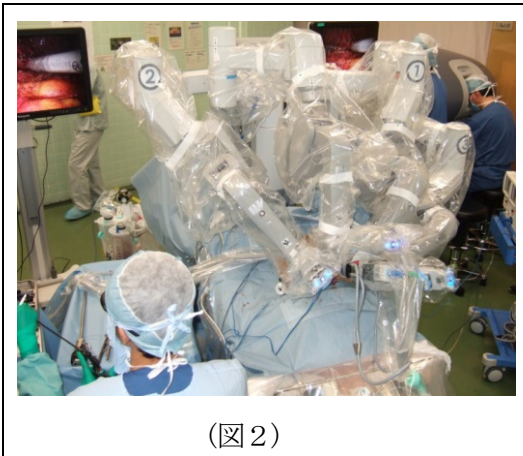
そう聞くとどうしても男性それも高齢者のみ扱う科と思われがちですが、近年増加傾向の尿失禁や過活動膀胱・間質性膀胱炎など婦人泌尿器科といわれる分野や先天奇形や夜尿症を扱う小児泌尿器科・慢性腎不全における人工透析、さらには腎移植という分野も存在しており、患者さんの範囲が広く、QOLにかかわりの大きい科だと自負しております。さて、下記に泌尿器科の代表的な疾患をあげます。

- 1 前立腺肥大症
- 2 過活動膀胱、神経因性膀胱
- 3 尿失禁(腹圧性・切迫性)
- 4 腫瘍:副腎腫瘍・腎腫瘍(良性:腎血管筋脂肪腫)、腎嚢胞
悪性:腎癌、腎盂癌・尿管癌・膀胱癌・前立腺癌・精巣癌
- 5 小児泌尿器科:停留精巣・尿道下裂・夜尿症・膀胱尿管逆流症・
包茎
- 6 腎不全(血液透析、腹膜透析、腎移植)
- 7 腎・尿管結石症
- 8 感染症:腎盂腎炎・膀胱炎・前立腺炎・精巣上体炎・尿道炎(性
感染症)
- 9 女性泌尿器科(骨盤臓器脱、尿失禁、間質性膀胱炎)

上記で一番代表的な前立腺肥大症について説明します。

前立腺は膀胱のすぐ下にあるクルミ大の臓器で精液をつくる役目を果たしています。そして、この真ん中を通っているのが尿道です。年をとるにつれて、前立腺はだんだん肥大していきます。そのために尿道が圧迫されて、尿が出にくくなります。

症状としては、尿がすぐ出ない、少ししか出ない、出はじめてから時間がかかる、尿をした後もスッキリせず残尿感がある、トイレから戻ってすぐまた行きたくなる、夜間に行く回数が多い（夜間頻尿）、尿を我慢できずにもらしてしまう（尿失禁）などが挙げられます。



(図2)

こうした状態を放っておくと肥大が進み、膀胱に残る尿の量が増え、感染や腎不全などの病気を引き起こすことがあります。まずは薬物療法を開始し、どうしても症状が改善しないときは下半身麻酔で経尿道的前立腺摘除術をおこないます。

また当院の特徴とし、腎不全治療があげられます。保存期腎不全及び透析医療については、腎臓内科と共同でおこなっており、さらには腎移植を当科で2003年から開始しており現在まで171例施行しております。

移植について親子間または血液型が一致していないとできないと思われがちですが、免疫抑制剤の進歩で、夫婦間であつても血液型が異なつても安全に移植することができるように

なりました。

最後に、最近の泌尿器科のトピックスである前立腺癌に対する新しい手術方法のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術について述べます。(図2)

平成24年保険適応され、当院でも平成24年11月愛媛県で最初に導入し現在まで52例施行しております。

良好な視野の獲得と繊細な操作が可能になったことで、手術侵襲が少ない術式として確立しており早期の社会復帰も可能となっております。(手術後の回復の速さは自分でも本当に驚いています。)

駆け足な説明となってしまいました。何か疑問に思う点、不安に思う点がございましたら気軽に泌尿器科外来に受診してくださいね。

◆ボランティアに関する活動

現在、“すべては患者さんのために”をモットーにボランティア活動に参加していただける方の募集活動を行っています。

ボランティア募集

患者さんに安心して治療を受けていただくよう、ボランティアの方を募集しております。みなさんの愛顔(えがお)と温かいお気持ちを提供していただき、患者さんに寄り添った活動をしていただければ幸いです。



病院ボランティアとは病院内で職員と協力して、患者さんに少しでもよい療養・安眠をしていただけるように、自発的に活動していただく方のことです。病院ボランティアは医療の専門的な仕事ではありませんが、院内には免許・資格がなくともできる活動があります。病院の趣旨を知っていただき、増進と病院の橋渡しができる楽しい活動です。また、その活動を通じて専任する喜びと患者さんからいただく活力を感じていただくこともできます。



活動内容 *玄関前でのお出迎え・誘導・車椅子介助
*自動再来受付機、自動支払機の使い方の説明および案内等

活動日時 月曜日～金曜日(祝日を除く)
8時30分～17時(この時間帯でご希望の時間)

活動場所 愛媛県立中央病院 松山市春日町83番地

申込資格等 特にありませんが心身ともに健康な方が希望の活動日時等にスムーズにご相談させていただきます



お問い合わせ・申し込み先

*愛媛県立中央病院
病院サービス委員会(ボランティア担当) 渡邊・上甲
*電話(代) 089-947-1111 内線 7282 or 7504
*ボランティア登録申し込み先
FAX 089-943-4136 または
アドレス c-kusank@eph.pref.ehime.jp

えがお

いつも 愛顔 と あいさつ を

**言葉は心の表れです。
忙しい時こそ丁寧に！**

★感じの良い言葉遣い★

- わかりました⇒かしこまりました
- 来てください⇒お越しください
- ありません ⇒ございません
- 少々お待ちください(ませ)
- 恐れ入りますが(お手数ですが)

～していただけますでしょうか？

愛媛県イメージアップキャラクター
みきちゃん

病院サービス委員会

Ver.5 H25.10



新病院になり、さまざまなご意見を頂きありがとうございます。そのご意見のなか、トイレの除菌クリーナーの設置要望が多くございました。感染面から考えても重要なご意見と受け止め、感染管理認定看護師の助言も受け設置されることになり取り付け作業が終わったところです。

今後も患者さんからの貴重なご意見を真摯に受け止め、安心安全な病院になるよう努力したいと思っています。では今回は、転倒予防のコツについてお話しします。

転倒予防はなぜ必要かといいますと、転んで骨を折って介護が必要になったり寝たきりになったりするのを防ぐためです。いつまでも元気に自分の足で動き回りたいですよね。そのためには、筋力が衰えないようにすることが大切ですが、なかなか年齢を重ねると大変です。

では、どうしたらいいのでしょうか？

まず、足首と足の指を鍛えましょう。足首が硬いとすり足状態になって、少しの段差でも躓いてしまいます。また、歩くときには足の指が地面をけて前に進むのです。

だからテレビを見たり、ちょっと休憩したりする時に、足首や足の指の柔軟性を維持する「足指グッパ」運動を試みましょう。

- ① 足指の間に手の指を入れて、足の指の間を広げる
- ② 足首をぐるぐる回す（左右10回程度）
- ③ 足でじゃんけん「グー」「チョキ」「パー」をする

足で「じゃんけん」なんてできないとあきらめずに、やってみることが大切です。これだけのことですが、やってみる価値はあると思いますよ。

◆病病連携・病診連携◆

連携医療機関のご紹介～第2回～

※当院は、平成22年10月29日に『地域医療支援病院』の承認を受けています。

このコーナーでは、紹介・逆紹介によって互いに連携を図っている医療機関を随時ご紹介させていただきます。（紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。）

II 医療法人財団慈強会 松山リハビリテーション病院



- 所在地：松山市高井町1211番地
- TEL：089-975-7431 ○FAX：089-975-1670
- 診療科目：リハビリテーション科・内科
- 病床数：326床
（一般病床：116床 回復期病床：160床 療養病床：50床）
- 外来診療時間（予約制）：午前9:15～12:00（受付8:45～）
午後13:00～17:00（受付12:45～）
（土日祝日、12/30～1/3を除く）
- ※午後は、外来リハビリ・物理療法のみ受付

○病院の理念：『リハビリテーションを軸とした社会貢献』

「社会復帰を目標に、リハビリテーションを通じて 患者様との深い信頼関係を築き 心ある医療と看護・介護を提供します。」

○病院の概要

- ・大正7年に前身の杏順堂桑原病院が開設され95年に及ぶ歴史を刻んでおり、まだまだリハビリテーションという言葉の浸透していなかった昭和48年からはリハビリテーション専門病院として地域医療の一翼を担っています。
- ・その後、歴史を重ね平成8年に「リハビリテーション総合承認施設」認可、平成18年には国土交通省による在宅の「重度後遺障害者短期入院協力病院」の指定、さらに平成20年には「愛媛県高次脳機能障害支援拠点機関」に指定されています。
- ・現在では、365日リハビリテーション提供体制へと移行しています。